

第3回 臨床研究セミナー 『観察研究を始めてみよう』

日本医療薬学会 臨床研究推進委員会では、臨床研究を実践するためのノウハウを向上させ、医療薬学の進歩発展を図ることを目的に、臨床研究セミナーを企画しています。研究の視点をもつことは薬剤師にとって非常に重要で、各種専門薬剤師を目指す方にとっては学術要件が必要となります。

第3回は、薬局や一般病院の薬剤師等が取りかかりやすい既存データを用いた観察研究を行うための How to と実践例に関するセミナーを企画しました。多くの先生方の参加をお待ちしております。

開催日時 2023年4月16日(日) 13:00~17:00
開催方法 ハイブリッド開催(事前参加登録必要)(オンデマンド配信はありません)
現地会場「大崎ブライトコアホール」(<https://osaki-hall.jp/>)
*詳細は一般社団法人日本医療薬学会 HPにてご確認ください。
主催 一般社団法人日本医療薬学会 臨床研究推進委員会
対象 薬剤師、大学教員、薬学生、その他
参加費 本学会会員 正会員 4,000円 学生会員 無料
一般 社会人 6,000円 学生 2,000円

〈プログラム〉 司会：尾関 佳代子(愛知学院大学薬学部)
開会挨拶(13:00~) 石井 伊都子(千葉大学医学部附属病院薬剤部)

基調講演1(13:05~13:45) 座長 中村 任(大阪医科薬科大学薬学部)
漆原 尚巳(慶應義塾大学薬学部・教授)
「疫学ってなに?比較ってなに?」

教育講演1(13:45~14:20) 座長 矢野 貴久(島根大学医学部附属病院薬剤部)
藤岡 一路(神戸大学医学部附属病院小児科・准教授)
「私の小規模な失敗~労力を無駄にしないための臨床研究テーマの選び方~」

教育講演2(14:20~14:55) 座長 鈴木 貴明(千葉大学医学部附属病院薬剤部)
小原 拓(東北大学東北メディカル・メガバンク機構・准教授)
「真実を見出すためにデータを正しく評価・解析・解釈しよう」

休憩(10分)

シンポジウム「身近なデータを活用した臨床研究 ~私の実践例:苦労と工夫~」(15:05~16:55)
座長 石崎 純子(金沢大学医薬保健研究域薬学系)、米澤 淳(慶應義塾大学薬学部)

1. 浜田 将太(医療経済研究機構研究部・副部長) 15:05-15:25
「NDB オープンデータの効果的な活用方法」
2. 近藤 悠希(熊本大学大学院生命科学研究部・准教授) 15:25-15:45
「薬局薬剤師の視点で取り組む臨床研究 -腎機能低下時の医薬品適正使用推進を中心に-」
3. 猪狩 賢蔵(医療法人社団城東桐和会 タムス瑞江病院) 15:45-16:05
「市中病院における臨床研究に必要なコトとは」
4. 川名 三知代(ココカラファイン薬局砧店) 16:05-16:25
「薬局薬剤師の臨床研究が患者を取り巻く環境を改善する」
5. 総合討論(16:25-16:55)

閉会挨拶(16:55~17:00) 矢野 育子(神戸大学医学部附属病院薬剤部)

認定単位:日本医療薬学会各専門薬剤師制度クレジット(5単位)

日本医療薬学会 第3回臨床研究セミナー 開催報告書

臨床研究推進委員会 委員長 矢野育子

第3回臨床研究セミナーを『観察研究を始めてみよう』のテーマで2023年4月16日(日)13:00-17:00に、前回同様ハイブリッド開催(現地会場:大崎ブライトコアホール)しました。今回は、薬局や一般病院の薬剤師等が取りかかりやすいと思われる既存データを用いた観察研究を行うために必要なHow toと実践例について企画しました。

前半は、基調講演1として、漆原 尚巳先生(慶應義塾大学薬学部・教授)から「疫学ってなに?比較ってなに?」を、その後、教育講演1として藤岡 一路先生(神戸大学医学部附属病院小児科・准教授)から「私の小規模な失敗～労力を無駄にしないための臨床研究テーマの選び方～」を、教育講演2として小原 拓先生(東北大学東北メディカル・メガバンク機構・准教授)から「真実を見出すためにデータを正しく評価・解析・解釈しよう」をご講演いただきました。

後半のシンポジウムでは、「身近なデータを活用した臨床研究 ～私の実践例:苦労と工夫～」をテーマに、浜田 将太 先生、近藤 悠希 先生、猪狩 賢蔵先生、川名 三知代先生の4名からご自身の経験を踏まえた研究事例と熱いメッセージをいただきました。

セミナーには351名の事前登録があり、会場にも委員を含めて50名程度の参加があり、久しぶりに賑やかなセミナーとなりました。終了後のアンケートの結果では、約30%は過去の本セミナーの参加者で、病院薬剤師が64%、薬局薬剤師が16%でした。参加者の年代としては40代が最も多く、次いで30代、50代で、今後もハイブリッドでの開催を希望する意見が多かったです。

今後のセミナーに対する要望では、座学でなくワークショップの開催や、研究をやりたい人と研究を教えてもよい人のマッチングを要望する声などがありました。また、疫学・統計に関する講演、質的研究、症例報告、業務評価研究など初学者向けのテーマで継続開催を希望する意見が多かったです。

最後になりましたが、企画や当日の運営にご協力いただきました石井副会頭及び臨床研究推進委員会委員、医療薬学会事務局の皆様には感謝申し上げます。